



里海づくり活動状況調査の結果と 過年度支援事業のフォローアップ結果

1. R4里海づくり活動状況調査の結果

(1) アンケート概要

(2) 活動団体の属性ごとの整理結果

(3) 調査結果の概要

1

令和4年度に、全国の里海づくり
取り組み実体を把握することを目的
として調査を実施

2

環境省が支援した、里海づくりの
実態に対象を絞って調査を実施

今後の里海づくりのあり方について
の検討・提言に向けた現状や
課題の整理(資料3)

2. 里海創生支援モデル事業・令和の里海づくりモデル事業のフォローアップ

(1) チェックシートの整理結果

- ・チェックシートについて
- ・チェックシートの整理結果

(2) ヒアリング結果

- ・ヒアリングについて
- ・ヒアリング結果

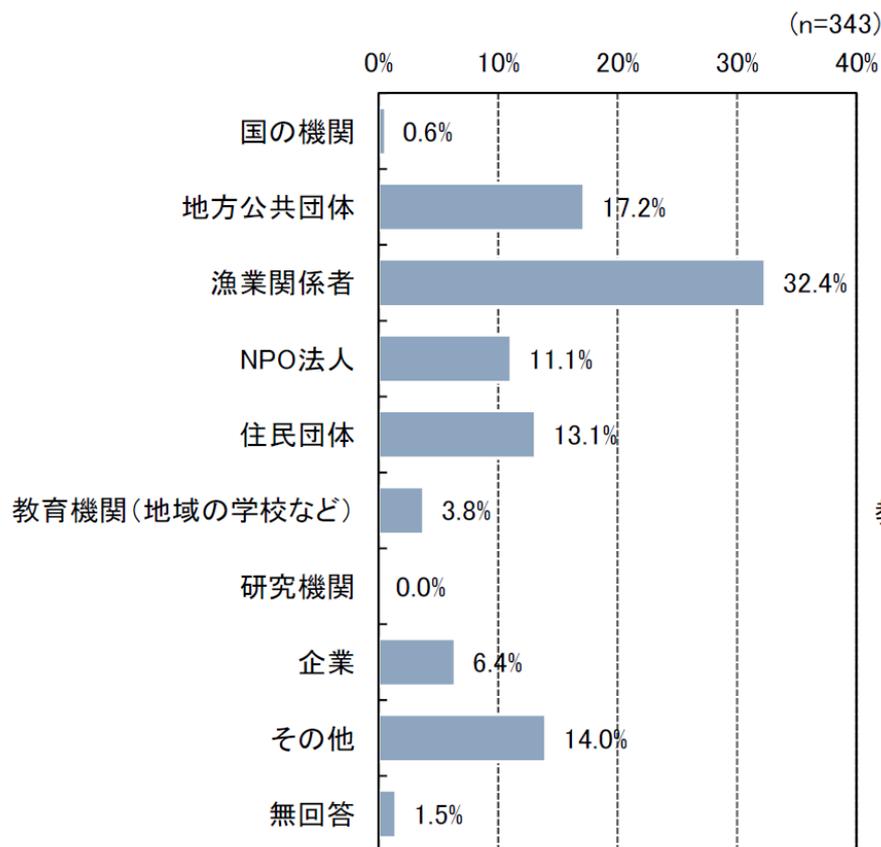
- 調査方法:主に都道府県や市町村から、里海づくり団体に調査票およびWEB回答用URLを送付した。回答者は直接WEB入力または、記入した調査票を事務局に返送してもらった。有効回収数は343であった。

調査期間	令和5年1月
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 以下の行政機関に、調査依頼文及びWEB回答用URL、調査票をメール又は郵送により送付 行政機関から里海づくり団体に、WEB回答用URL及び調査票を送付 <p>【メール】39 都道府県の環境部局及び水産部局</p> <p>【郵送】338 沿岸市区町村の環境部局又は水産部局</p>
過年度調査からの変更点	<ul style="list-style-type: none"> 過年度調査では都道府県・市町村等から里海づくり団体に調査票を郵送のうえアンケートを周知し、回答用URL又は郵送等による回収を行ったが、本年度は回答用URL又はメールによる回収とした。 各設問の選択肢等を修正するとともに、「活動の成果」(問15)、「活動の効果指標と確認の方法」(問19)について、過年度は自由記述式設問であったが、本年度は選択肢式設問とした。

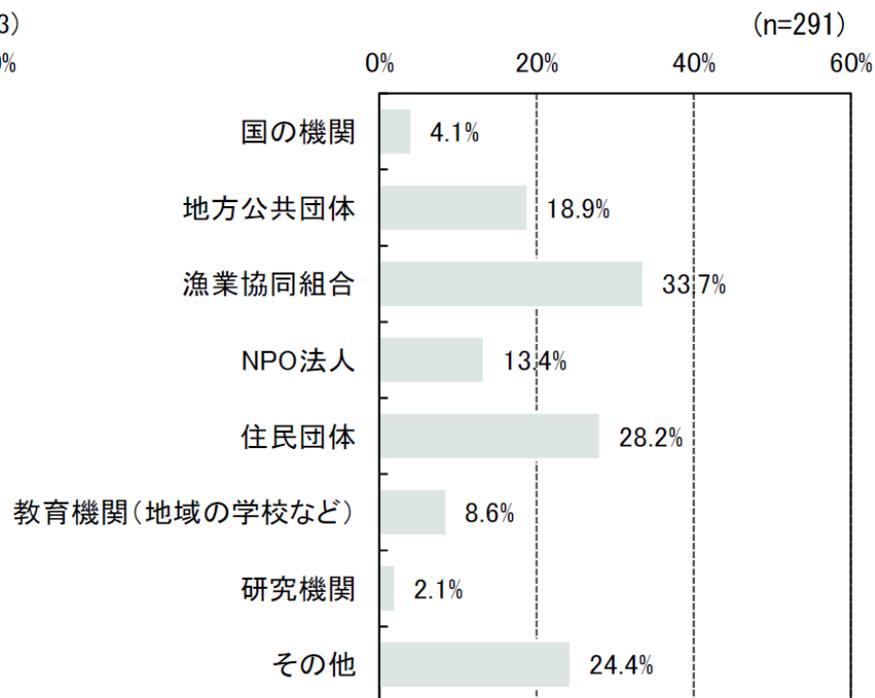
1 - (2) 活動団体の属性ごとの整理①：活動団体の属性

- 活動団体の属性：「漁業関係者」の割合が最も高く32.4%となっている。次いで、「地方公共団体(17.2%)」、「その他(14.0%)」となっている。平成30年度調査とは、項目の差異があるため単純に比較できないが、H30年度と比して住民団体の割合が減少している。

【令和4年度】

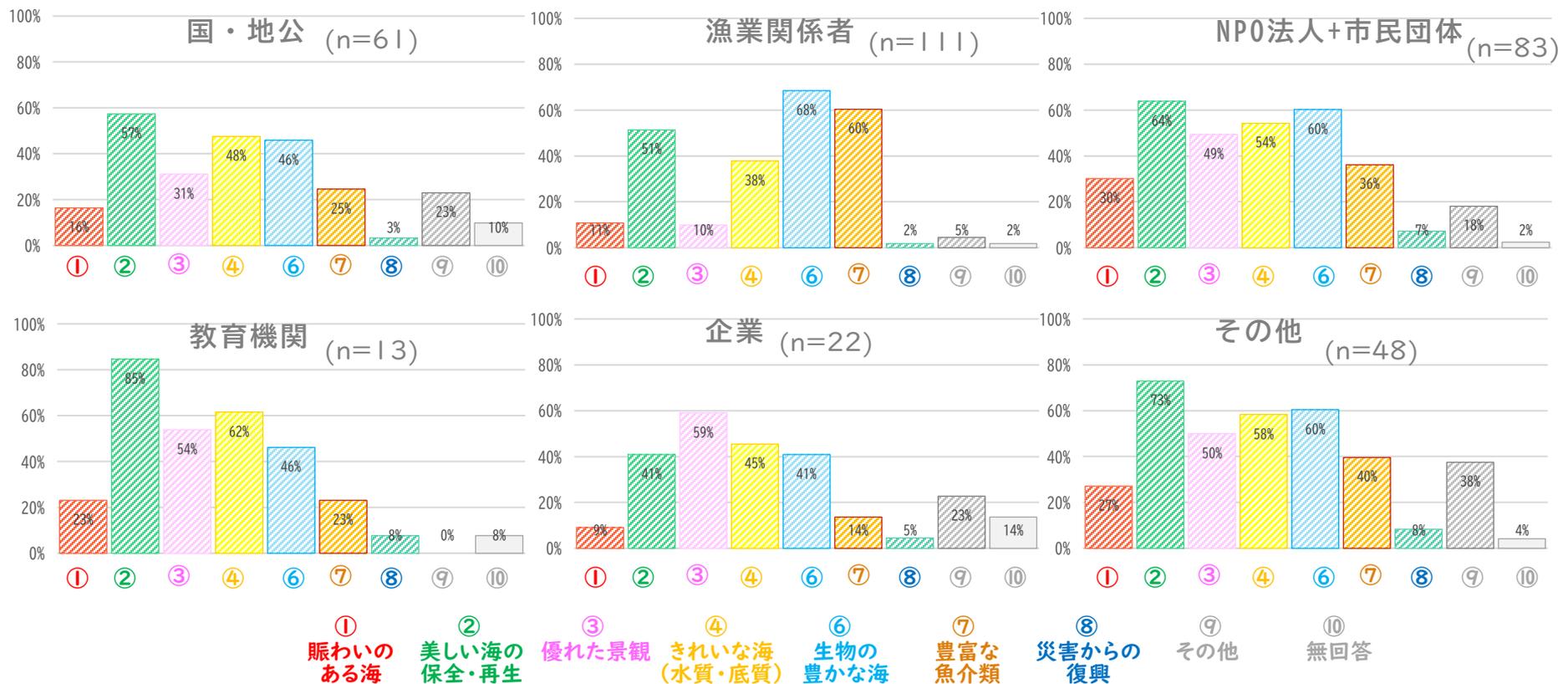


【平成30年度】



1 - (2) 活動団体の属性ごとの整理②：活動目的

- 漁業関係者では「生物の豊かな海」や「豊富な魚介類」の占める割合が、国・地公、NPO法人+住民団体、教育機関及びその他では「美しい海の保全・再生」が、企業では「優れた景観」が大きい。

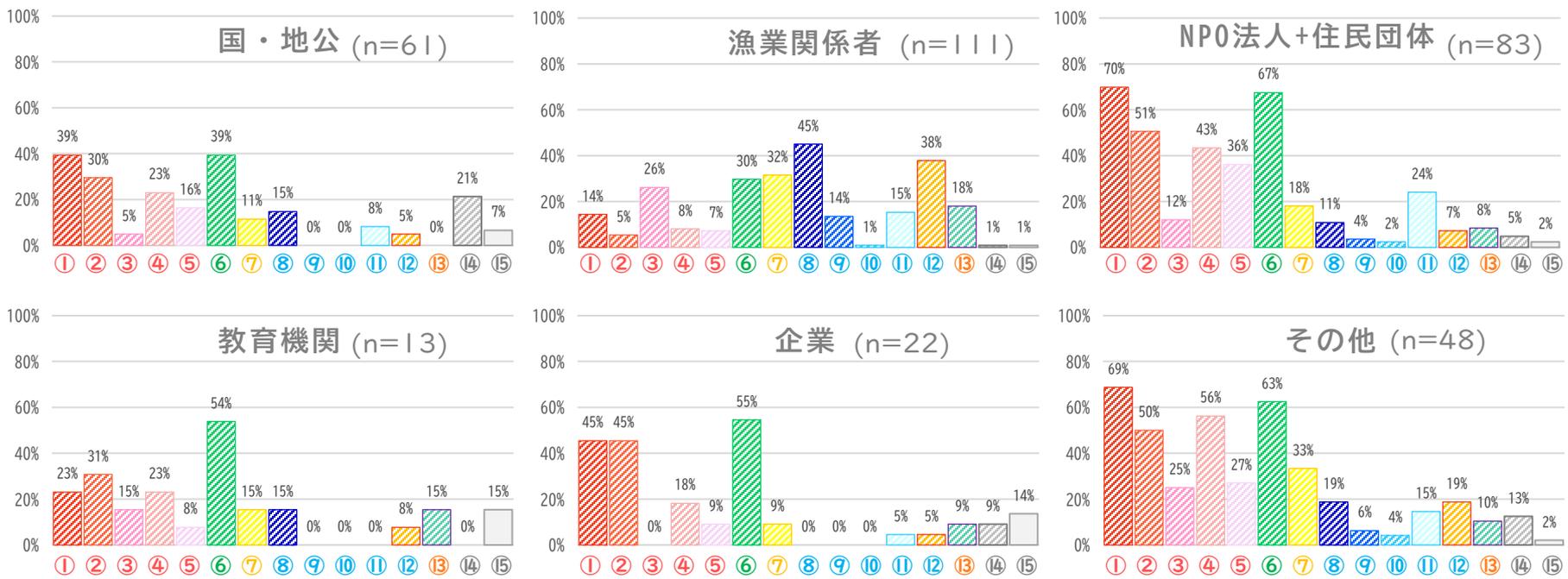


① 賑わいのある海
 ② 美しい海の保全・再生
 ③ 優れた景観
 ④ きれいな海 (水質・底質)
 ⑥ 生物の豊かな海
 ⑦ 豊富な魚介類
 ⑧ 災害からの復興
 ⑨ その他
 ⑩ 無回答

里海づくり活動の目的

1 - (2) 活動団体の属性ごとの整理③：活動の成果

- 漁業関係者は「藻場の創出・増大」や「水産資源の回復・増加」、「水質・底質の改善」など豊富な魚介類、生物の豊かな海、きれいな海に関連する成果の割合が大きく占めた。
- NPO法人+住民団体、企業等では、「ゴミの減少等、景観の向上」や「周辺住民の関心の高まり」など、美しい海の保全・再生や、賑わいのある海に係る成果の割合が大きく占めた。

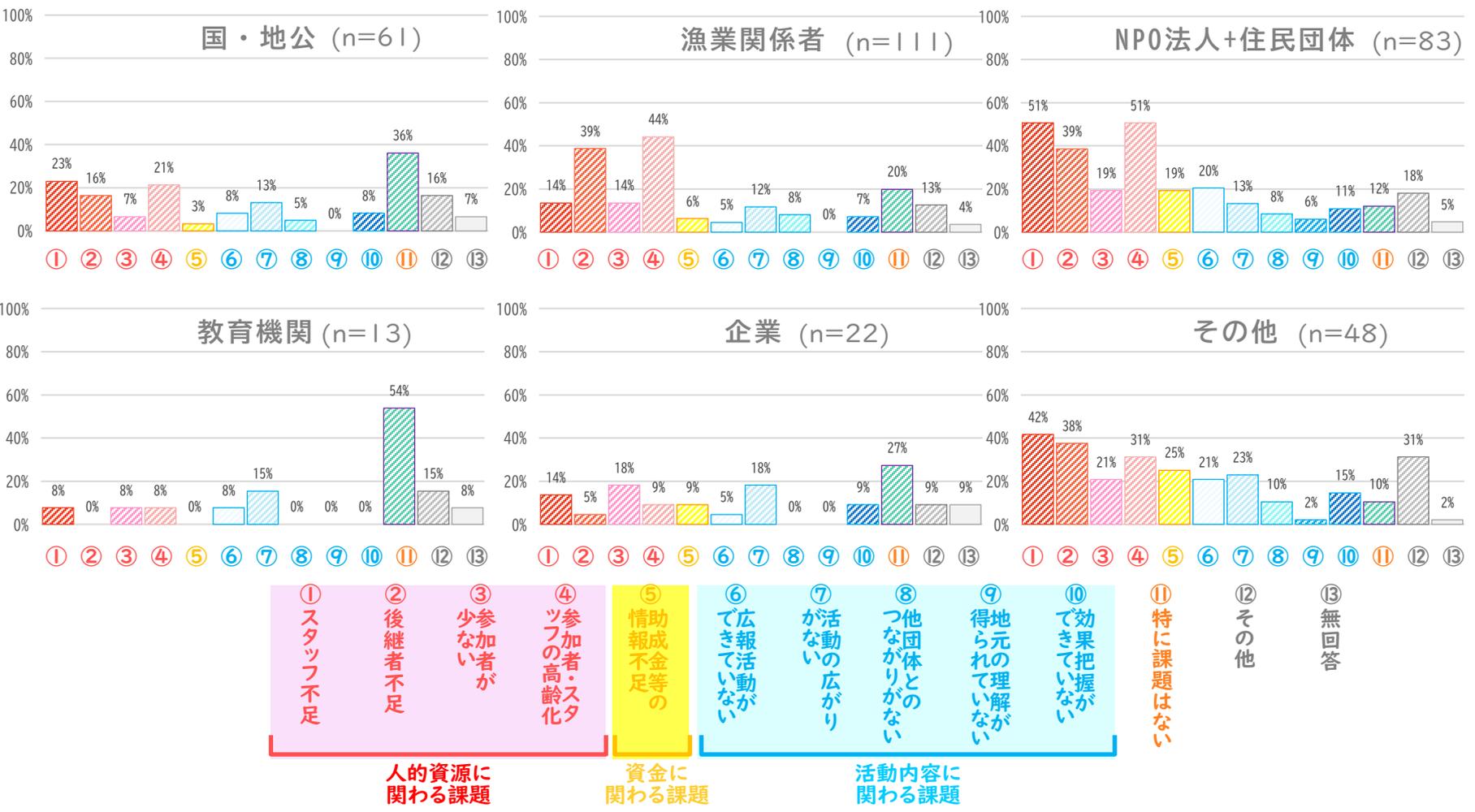


① 周辺住民の関心の高まり	② 活動参加者の増加	③ 漁業者の活動への関心の高まりや、参加者の増加	④ 活動に関するネットワークの拡大	⑤ 住民や観光客の増加	⑥ ゴミの減少等、景観の向上	⑦ 水質・底質の改善	⑧ 藻場の創出・増大	⑨ 干潟の創出・増大	⑩ サンゴ礁の創出・増大	⑪ 希生物多様性の増加	⑫ 水産資源の回復・増加	⑬ まだ成果は出ていない	⑭ その他	⑮ 無回答
賑わいのある海			美しい海の保全・再生		きれいな海 (水質・底質)		生物の豊かな海			豊富な魚介類				

里海づくり活動の成果

1 - (2) 活動団体の属性ごとの整理④：活動の課題

全体的には「スタッフ不足」や「後継者不足」、「参加者・スタッフの高齢化」など人的資源に関わる課題の割合が高い。漁業関係者では、「後継者不足」、「参加者・スタッフの高齢化」の割合が高くなっていますが、NPO法人+住民団体では、加えて「スタッフ不足」の割合も高い。企業では「参加者が少ない」、「活動の広がりがいい」等の割合が他の団体と比べて大きい。

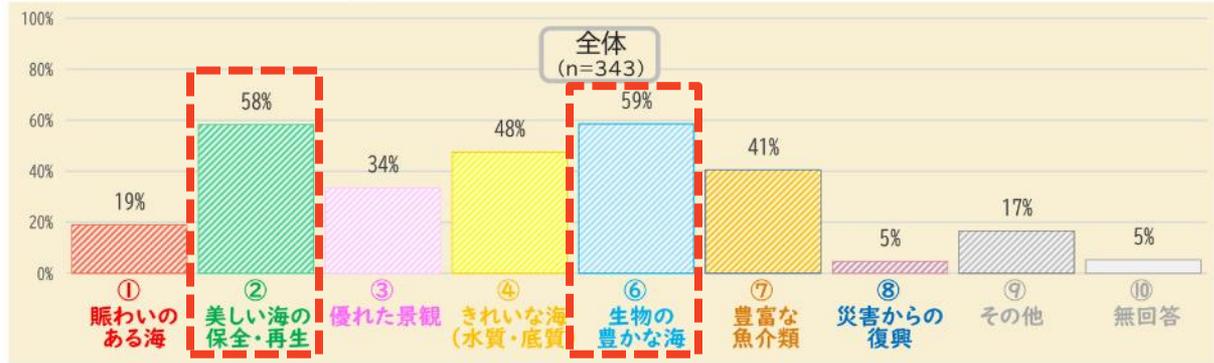


○ 「里海づくり」の考え方を取り入れた沿岸域の水環境の保全・再生等に関する取組の実施状況を把握するため、令和4年度に自治体、NPO法人、漁業関係者等を対象にしたアンケート調査を実施し、令和5年12月公表。（「令和4 里海づくり 状況調査」で検索！！）

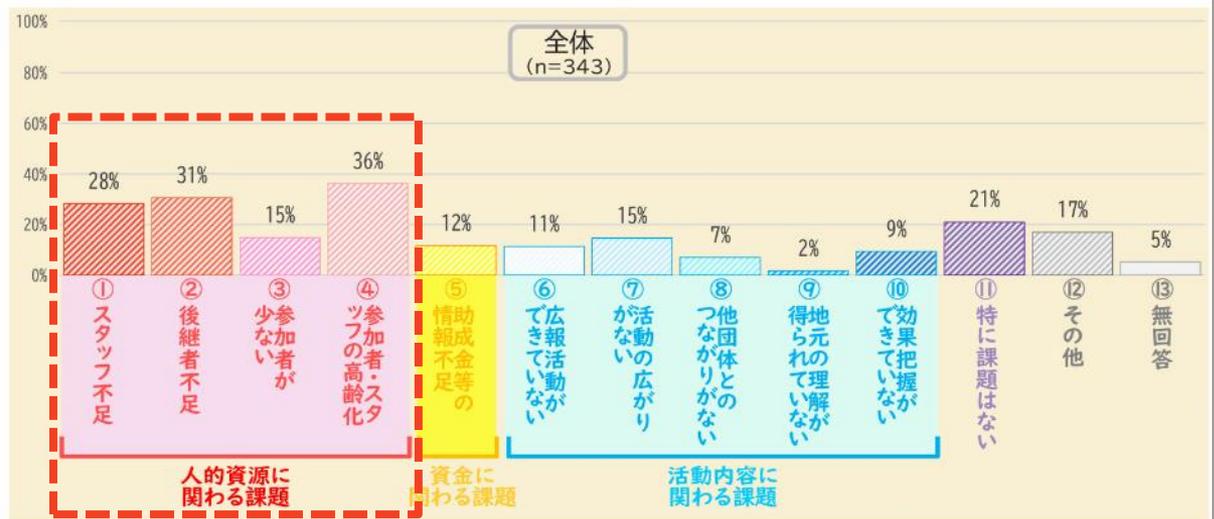
結果概要

- 全国の里海づくり活動事例は343例（H30は291例）。
- 活動の目的は、「美しい海の保全・再生」、「生物の豊かな海」が多く、**美しい・豊か**が活動のモチベーション。
- 活動における課題では、**人的資源に関わる課題が多い**。
- その他、「専門知識の不足」や「効果把握ができていない」といった観点の課題も多くみられた。

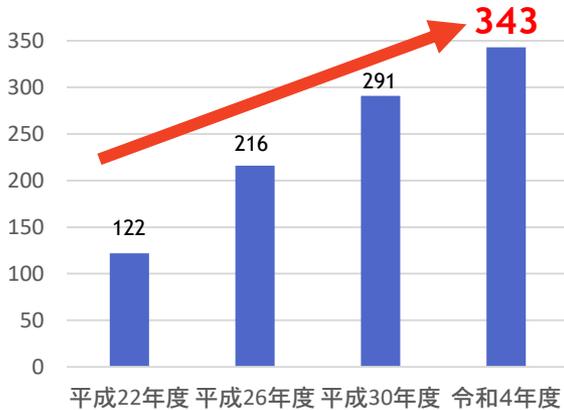
里海づくり活動の目的（複数回答可）



里海づくり活動における課題（複数回答可）



里海づくり活動事例数の推移



- 対象：H.20～22里海創生支援モデル事業、R.4～5令和の里海づくりモデル事業)
- 事前に各団体に配付し、記入後返送してもらった。
- 配付団体数25団体に対して、返送団体数20団体(回収率80%)：2024/11/05時点
- チェックシート記載内容：下記内容から現在の活動に当てはまる項目を選択

1. 取り組み内容

環境保全：モニタリング、生物のリスト作成、希少種・指標種等の保全、藻場・干潟の保全

社会的包摂：文化財等の整理・保護、地域の行事カレンダー作成、地域の文化・景観等の保全、清掃活動、普及啓発活動、教育活動、スタッフ等関係者への研修、学術団体への報告・論文等執筆、地域住民、地方自治体への報告・情報共有等、SNSでのフォロワー獲得、移住者数の受け入れ、地域住民の参画、漁業者の参画、農家の参画、地元企業の参画、バリアフリーの整備、災害時における参加者や住民の安全確保、運営に十分なスタッフの確保、専門知識を有するスタッフの確保、自治体等との連携、企業等との連携、関連する団体との連携、金融機関との連携、専門家、研究機関との連携、社会教育施設との連携、小中学校等教育機関との連携

- チェックシート記載内容: 下記内容から現在の活動に当てはまる項目を選択

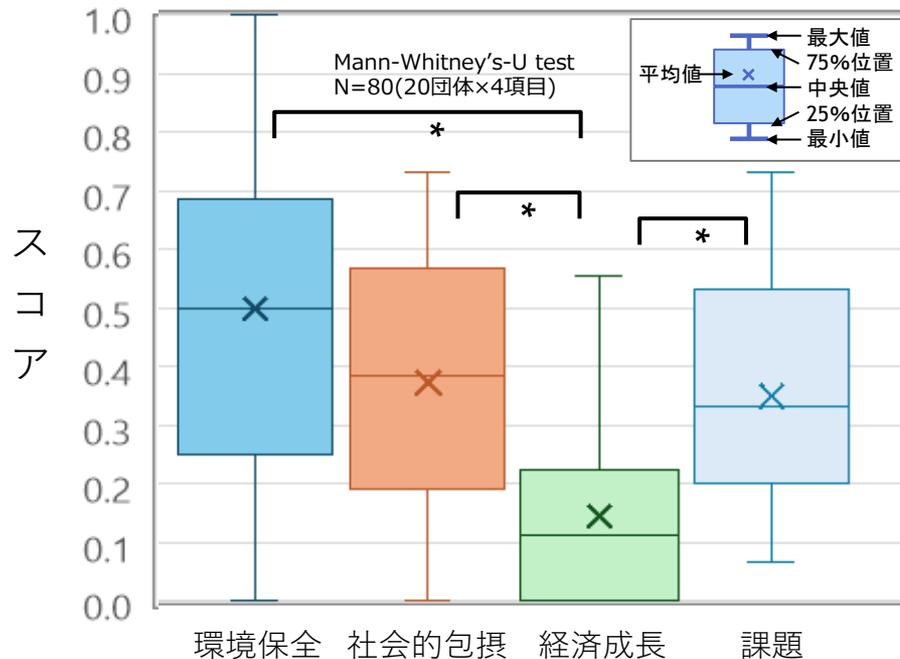
1. 取り組み内容(つづき)

経済成長: 漁獲物の販売、農産物の販売、ツアー・イベントの催行、その他の商品の販売、融資・借入、投資、クレジット収益(ブルーカーボン等)、寄付・クラウドファンディング等、商品開発・マーケティング

2. 課題

資源の減少・枯渇、生物学的多様度の消失、藻場・干潟の消失、気候変動・温暖化、富栄養、貧栄養、水質汚濁・汚染、公共工事等による自然環境の改変・破壊、制度上の不備や制限、人口減少、人材不足、後継者不足、財源不足、里海づくりに関わる知識・技術不足、里海づくりに対する地域の理解不足

- 回答団体数: 20団体
- 環境保全、社会的包摂、経済成長、課題の「取り組みあり」の回答を平均化(各項目で全て取り組んでいる場合は「1.0」)



取組が多い項目/少ない項目

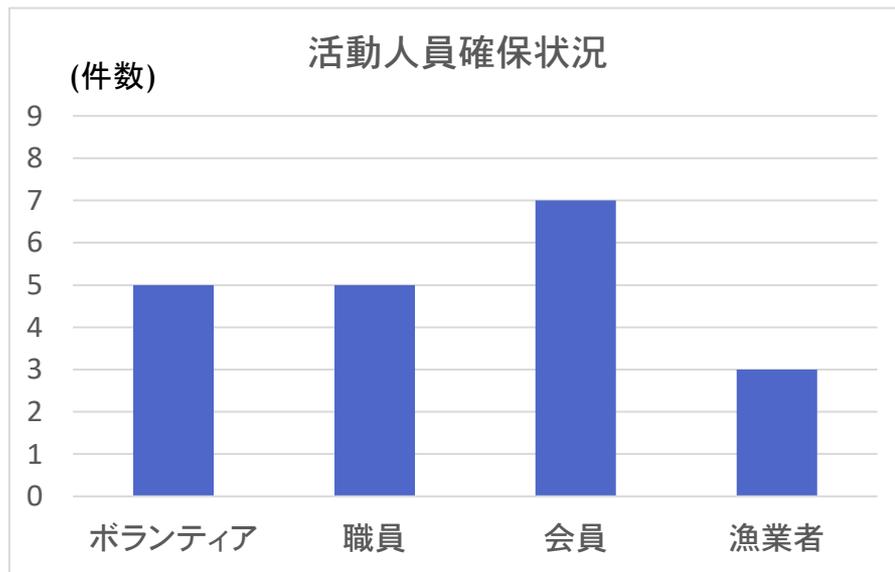
- 環境保全**: 藻場・干潟の保全、再生(16団体)/希少種、指標種等の保全(3団体)
- 社会的包摂**: 普及啓発活動(17団体)/移住者数の受け入れ、バリアフリーの整備(0団体)
- 経済成長**: ツアー・イベントの催行(9団体)/融資・借入、投資(0団体)
- 課題**: 財源不足(14団体)/制度上の不備や制限(1団体)

- 環境保全: 「モニタリングの実施」については漁獲物データの集計のみにとどまる団体もあった
藻場干潟の生き物についてモニタリングし、目録として整理している団体は1団体のみ
- 社会的包摂: 地域の伝統や文化、生業との調和を含む取り組みはほぼなし。
社会的包摂という意味ではスコアは過大評価か?
- 経済成長: 「ツアー・イベントの催行」が最も多く、経済成長項目にチェックのない団体もあった。
⇒「財源不足」を課題(2-(2))挙げる団体が多い反面、資金確保の取り組みが乏しい。

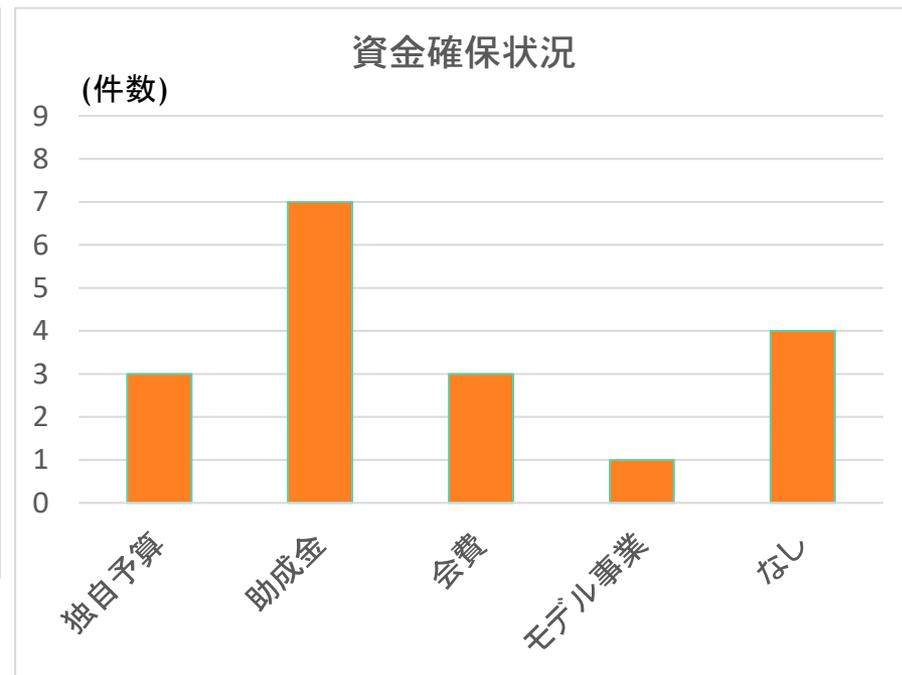
- ヒアリング対象：H.20～22里海創生支援モデル事業、R.4～5令和の里海づくりモデル事業)
- ヒアリング対象団体数：20団体：2024/11/5時点
- ヒアリング方法：各団体1時間程度、Web MTGによりヒアリングを行った。
- ヒアリング整理結果：16団体（回答率：80%）：2024/11/7時点
- ヒアリング内容
 1. 里海づくりの取り組みの持続性（資金・人員の確保、理由を含む。）
 2. 取り組み継続に際しての課題
 3. 連携機関の有無（行政・金融機関等）
 4. 藻場干潟保全の成果
 6. 専門家の助言の有無
 5. 藻場・里海づくりモデル事業についての意見（環境省や請負事業者へ対して）
 7. 令和4～6年度の令和の里海づくりモデル事業への応募状況
 8. その他の要望・意見

1. 里海づくりの取り組みの継続性

- 回答を得た16団体は、全て現在も活動しているとの回答
- 現在の活動は、申請時の活動と異なる団体が2団体(海岸清掃のみ、観光のみ)
- 活動を支える人員は、会員、ボランティア(大学生・高校生含む)が多かった
- 活動を支える資金は、助成金が最も多かった

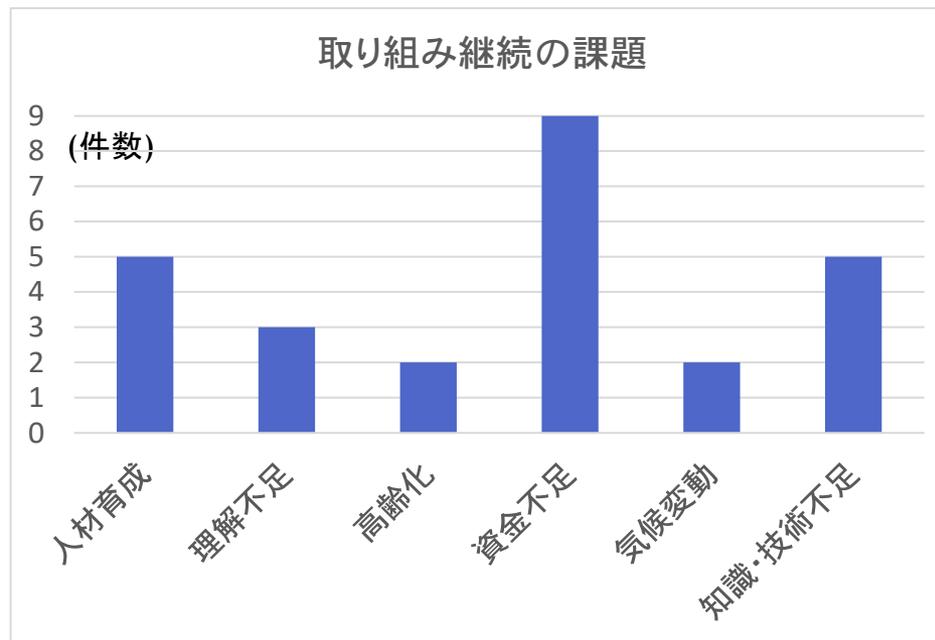


※重複回答あり



2. 取り組み継続の課題

- 資金不足が最も多く、次いで里海づくりの人材育成、知識・技術の不足
- 各課題に対応した取り組み内容はほぼ無し、1件クラウドファンディングを計画していた



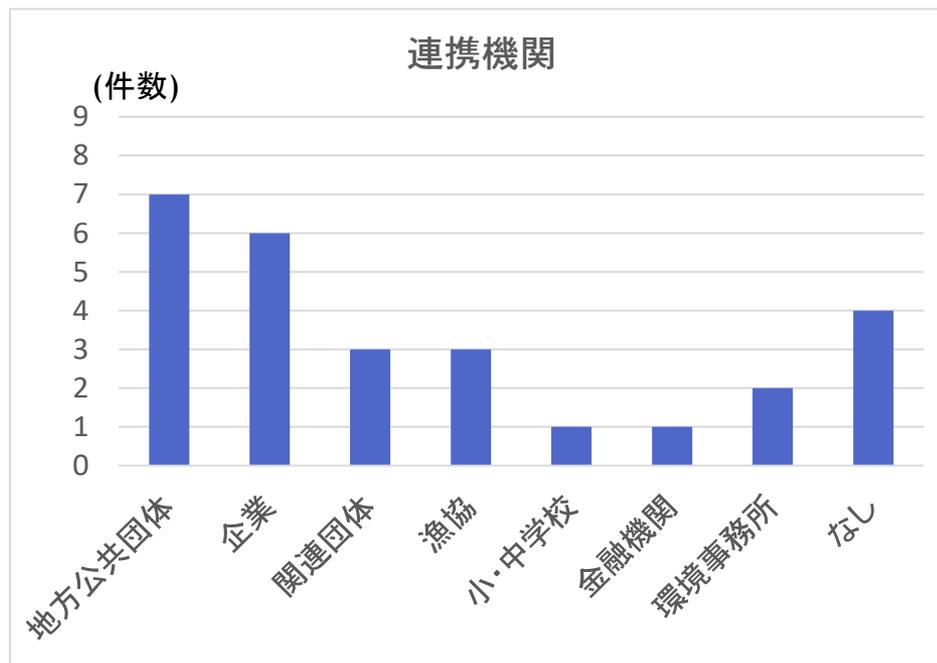
※重複回答あり

3. 連携機関の有無

- 連携機関は、県・市・町が最も多く、次いで民間企業

4. 専門家の助言の有無

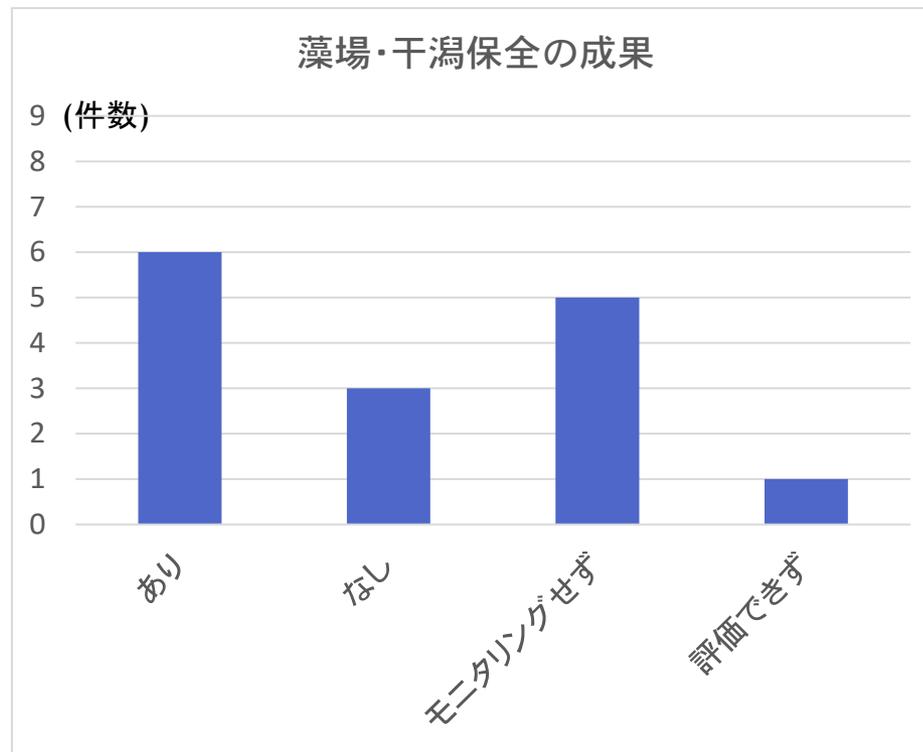
- 専門家の助言を受けていた団体は8団体(40%)で、程度や頻度は様々
※連携先、助言を一切受けていない団体についても一定数あり



※重複回答あり

5. 藻場・干潟保全の成果

- 成果があった事例は6団体
※現状維持、藻場干潟の衰退が認められない団体も含む
- モニタリングを実施していない団体も5団体
そのうち、2団体は現在の活動がそれぞれエコツアーのみ、観光のみ



6. 里海づくりモデル事業についての意見

<良かった点>

- 企業・市民団体も対象となっていること
- 専門家から客観的なアドバイスを受けられること
- 経済的な支援(人件費にも使うことができる)

<悪かった点>

- 事業のゴールがわかりにくいこと
- 事業の進め方がわかりにくいこと
- 単年度事業なので、効果がみえにくいこと
⇒ 藻場が繁茂する時期、潮が引く季節に活動することができない
- 環境省の方針を請負事業者が理解していないように思われること

<その他要望等>

- 情報提供/共有の場を作って欲しい
- 里海づくりは地域の成長を旨とするのか脱成長を目指すのか？ 成長であれば新たな産業が必要である
- 里海に対する理解不足の解決策がわからない
- 環境省が省内はもちろんのこと、国として他省庁等の施策とも整合性を取ってほしい
- 地元での人材育成を支援して欲しい